

収量・品質に優れるセンリョウ赤色実の選抜系統「KTS-A1」		
[要約] センリョウ赤色実の選抜系統「KTS-A1」は、収量、品質に優れ、上位等級品を多く産する系統である。市場評価として、「実付き」、「全体的なボリューム」に優れ、商品性が認められる。		
茨城県農業総合センター 鹿島地帯特産指導所	成果 区分	技術情報

1. 背景・ねらい

本県のセンリョウは東京中央卸売市場で全国シェアの約 60%を占め、全国的にも圧倒的な占有率を誇る。センリョウは民間や公的機関での育種例が極めて少ないため、全国一の生産県の位置を確保し、有利販売を進めていく上で、収量・品質に優れる県オリジナル品種を育成する必要がある。

そこで、本県において収量・品質に優れる赤色実系統を選抜するとともに、市場関係者からの評価を受け、市場性の確認を行う。

2. 成果の内容・特徴

1) 系統としての特性として、「KTS-A1」は結果枝が長く、枝あたりの房数が多いことから、上位等級品を多く産する系統である(表 1)。

2) 収量は、「KTS-A1」は積算可販枝数が多く、房数が多い(表1)。これは、過去4ヶ年の結果とも合致することから、収量・品質性は気象条件や隔年結果性等による年次変動ではなく系統としての特性である。「KTS-A1」は遺伝的に固定され、安定していると考えられる。

3) 生産者評価は、総合評価で在来より優れる。評価は特に実に係る項目で優れ、「房数」、「実付き」、「大きさ」、「色」の全てで、在来より優れる(表2)。

4) 「KTS-A1」の市場評価は、「実付き」、「全体的なボリューム」、および総合評価である「商品性」で、在来より優れる(表3)。生育が旺盛で葉や枝が大振りになるため、「実と葉のバランス」にやや劣る。

3. 成果の活用面・留意点

1) 「KTS-A1」の市場評価は、高級花材を多く扱う A 社で高く、量販品を多く扱う B 社で低い。当系統の導入、販売にあたっては、高級な上位等級品を多く産する系統として、特化した PR が望ましい。

4. 具体的データ



図1. 「KTS-A1」の外観

表1 収穫調査(現地)^z

系統名	H18~21年 積算可販枝 数(本/株)	可販 枝長 (cm)	房数 (房/枝)	シュート数 ^y (本/株)	地際 芽数 (本/株)	地際芽 +シュート数 (本/株)	果皮色 ^x	熟期 ^w
KTS-A1	9.7	91.0	6.1	1.3	1.3	2.6	7Y0706 鮮橙赤	中
在来	7.2	86.0	5.0	1.6	1.0	2.6	7Y0706 鮮橙赤	中

^z 平成11年に所内で播種した6年生苗木を平成17年4月に神栖市波崎の現地圃場に移植。栽植は株間40cm×畝間67cmの単条高畝。栽培管理については農家委託とし慣行通り。

^y 次年度の収穫が見込まれる充実したシュート。 ^x 日本園芸植物標準色票により着色完了時に調査。

^w 着色完了時期で分類し、早:11月上旬以前、中:11月中旬、晩:11月中旬~12月上旬。

表2 生産者評価^z

系統名	総合 評価	実				葉			樹形等		
		房数	実付き	大きさ	色	大きさ	形	色つや	樹高	樹皮色	硬さ
KTS-A1	2.3	2.5	2.5	2.4	2.2	2.1	2.1	1.4	2.3	2.0	2.0
在来	1.5	2.0	2.0	2.2	2.0	1.8	2.0	1.6	2.1	2.0	2.0

^z 生産者評価は右記の平均。3:非常によい、2:良い、1:悪い(評価者数14名)。

表3 市場評価^z

	社名	商品性	実付き	全体的な ボリューム	実と葉の バランス	葉茎の 色・形
市場	A	5	5	5	5	5
	B	2	5	4	1	3
	C	3	1	2	1	3
仲卸	D	3	3	4	4	2
	E	3	3	4	3	3
平均		3.2	3.4	3.8	2.8	3.2

^z 採点は在来の基準点を3とし、次の配点によりアンケートを実施。(0:非常に悪い、1:悪い、2:やや悪い、3:普通(基準)、4:やや良い、5:良い、6:非常に良い)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

センリョウの優良品種の選抜と育苗等栽培技術の開発・平成12~21年度・鹿島地帯特産指導所